

# 令和6年度 年間指導計画

A科:生物科学科 B科:環境科学科 C科:食農科学科

教科名	農業	科目名	造園植栽	単位数	2	履修学年・クラス	2B緑化
担当者		使用教材	造園植栽				
学習目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、造園植栽に必要な資質・能力を育成することを目指す。 ○造園植栽について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ○造園植栽に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ○造園植栽について目的や環境に応じた合理的な植栽につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						
学習方法	○実習・座学を通して造園の植栽施工と管理、造園樹木の管理について知識・技術を身に付けます。 ○高校在学中に、造園技能士や造園施工管理技術士の資格取得に挑戦するので、学科試験対策に繋がる学習を行います。 ○現場見学やインターンシップ等、校外での学習の機会を使いながら、社会人(職業人)に求められる資質・能力を養う。						
学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨				
	知	知識・技能(技術)	造園植栽について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。植栽材料の名前、特徴を知り、特性を見極めた施工法や管理法が選択できる。				
	思	思考・判断・表現	造園植栽に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。レポートを活用することで、課題を発見・思考する。樹木や草花の活用方法を判断できる。				
	態	主体的に取り組む態度	造園植栽について目的や環境に応じた合理的な植栽につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的に取り組む態度を養う。資格取得につながる学習でもあることを意識し、主体的かつ協働的に取り組むことができる。				
定期考査については、上記の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。							

学期	単元(題材)	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			知	思	態		
前期中間	第1章 造園植栽の意義と役割	1節 造園植栽の意義	○			〔知〕 造園植栽の意義や特色と役割を理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 〔思〕 造園植栽に関する課題を発見し、その課題解決につながる方法、技術、環境整備など思考できる。 〔態〕 造園植栽について自ら学び、植栽と風景の関りや植物材料を活用した造園の施工管理に関心を持ち、造園資格取得に向け主体的に取り組もうとしている。	授業の取組 実習態度 学習プリント 考査
		2節 造園植栽の特色と役割	○	○			
3節 植栽と風景	○		○				
4節 植栽に関わる課題		○	○				
5節 「造園植栽」とプロジェクト学習			○	○			
前期末	第5章 造園植物	1節 造園植栽の基本	○			〔知〕 造園植栽の基本を理解し、造園植物・樹木の特性を理解している。 造園植物・樹木の基本的な管理方法について理解し、特性に合わせた取り扱いができる。 〔思〕 庭園様式、空間の目的や地域環境に応じた造園植物・樹木の選択、取り扱い、繁殖、育成の判断ができる。 〔態〕 現場見学を通じて、庭園や都市公園などの景観を維持していくための意識や方法を知り、造園に関心が持てる。	授業の取組 実習態度 学習プリント 考査
		2節 造園植物と植生	○				
3節 造園植物の分類	○	○					
4節 造園樹木の形状	○	○					
5節 造園植物の繁殖と育成		○	○				
		現場見学	○		○		

後期中間	第4章 造園植栽管理	インターンシップ(職業体験) 庭園製図(花農祭個人作品)	○		○	〔知〕 造園の仕事を経験し、職業人の理解が深まる。庭園、街路樹、公園等、植栽環境に応じた適正な樹木の管理について理解している。芝生やその他の植物の管理について理解している。 〔思〕 庭園製図に取り組みながら、造園空間の構成、植栽の配置などデザインすることができる。目的に合わせた造園植物・樹木の適正な管理方法を判断することができる。病害虫の種類に適する農業の選択ができる。 〔態〕 積極的な態度でインターンシップに取り組んでいる(受け入れ事業所の評価を参考にする)。庭園製図(花農祭個人作品)の成果	授業の取組 実習態度 学習プリント インターンシップレポート、評価簿 個人作品 考査
		1節 植栽管理の基本	○		○		
2節 樹木の管理	○	○					
4節 芝生の管理	○	○					
5節 芝生以外の地被植物、草花の管理	○	○					
6節 農業の安全管理		○	○				
後期末	第3章 造園植栽施工	門松製作・寄贈	○		○	〔知〕 日本の伝統文化の理解・関心が深まる。門松の構成要素、意味を理解している。 芝生と花壇の造成に必要な基本的な知識・技術を理解している。 〔思〕 造園技術(竹の取り扱い、結束方法、配植など)をいかして門松を製作できる。 国家検定資格取得に向けた、造園技術分野の活用方法を選択できる。 〔態〕 門松の製作・寄贈を通して社会貢献活動の態度を深めることができる。 三年次の資格取得に向けた意識が深まる。	授業の取組 実習態度 学習プリント 作品 考査
		1節 造園植栽施工の組み立て	○		○		
2節 植栽基盤整備	○	○					
3節 樹木の植栽施工		○	○				
4節 芝生・地被植物の植栽	○	○					
5節 草花類の植栽		○	○				